

千葉県国際交流協会連絡協議会が 香取市で開かれました

秋山 勝(広報青年部会)

千葉県内の国際交流協会は年に1回集まって、現在と今後の活動について情報交換しています。その千葉県国際交流協会連絡協議会の第7回が11月8日(火)に香取市佐原で開催されました。

今回の主催は香取市国際交流協会で、県内各市の国際交流協会と千葉県、ちばコンベンションビューローから18団体33人が参加しました。

主催者の挨拶の後、まず全体会で各国際交流協会の自己紹介と活動報告があり、現在取り組んでいることや今後の課題などが報告されました。その後、分科会に分かれてテーマを絞った議論が行われました。テーマは①協会の活動内容について②2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての取り組み③協会と他団体(関連団体)との共生について④災害時の外国人対応について、でした。習志野は振り分けられた④の分科会に参加しました。

全体会での主な発言としては、「東京オリ

ピック・パラリンピックに向けて英語通訳ボランティアの養成を始めている」「財政難の悩み。運用資金がマイナス金利で減少」「姉妹都市と高校生間のインターネットテレビ会議を検討中」「イングリッシュカフェを実施していて好評」「創立30周年に向けて何をするか思案中」「協会と市民が離れているのが問題」「活動に外国人の参加を促し、外国人に住みよい街を目指す」などがあり、やはり会員の高齢化や資金難は共通の課題でした。

分科会では「インドネシア出身者が多いことから協会がイスラム文化を紹介する催しを実施」「在住外国人の考えや文化をもっと知ること」「オリンピック・パラリンピック対応では通訳だけでなく、日本の生活・文化を訪問客に紹介したい」「災害時での外国人サポーターを組織して、きめ細かい対応に備えている」などの意見が出ました。

会議を通して、短い時間でしたが、各協会それぞれの創意工夫が伺えたと同時に、活動の充実に向けた熱意を感じました。



全体会では各国際交流協会が活動報告



会場近くには、おなじみ佐原の歴史的町並み